

物理化学3（平衡と反応速度論）

責任者・コーディネーター	構造生物薬学分野 阪本 泰光 准教授		
担当講座・学科(分野)	構造生物薬学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 18時間
期 間	前期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

本講義において、反応速度論に関する基本的事項を修得することで、物質の変換過程を理解できるようになる。物理化学2では、気体の熱力学と反応の方向性を学んだ。物理化学3では、溶液の性質、電気化学、化学反応の速度について学び、反応速度式の決定、反応速度に影響を与える温度・酸塩基触媒、酵素触媒などの諸因子について学ぶ。反応の方向性、反応の速度に関するデータを解析し、評価できるようにすることで、生体内の反応機構、化合物の生成・分解速度に関する理解ができるようになる。

・教育成果（アウトカム）

熱力学、反応の方向性、化学反応速度論、および反応速度に影響を与える諸因子に関する基本的事項を修得することで、物質の変換過程を理解し、医薬品の示す物性現象を理解できるレベルに到達する。
(ディプロマ・ポリシー：7)

・到達目標（SBO）

1. 溶液の性質、化学ポテンシャル、活量、イオン強度について説明できる(160-163)。
2. 電池、起電力と平衡定数・ギブズエネルギーの関係、電極電位、ネルンストの式を説明できる(164-165)。
3. 反応次数と速度定数の理解に基づき、代表的な反応の特徴や反応理論の概要を説明できる(166-168)。
4. 簡単な反応の速度式を変形して、速度定数を計算することができる(169-172)。

・講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/2	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	熱力学の原理1（エントロピー、エンタルピー）、確認演習 1. エントロピー、エンタルピーを理解することにより、説明できるようになる。 【双方向授業】 【ICT(Google forms)】 ：講義中に理解度確認を行う。

					<p>事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>
4/9	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>熱力学の原理2（ギブズエネルギー、化学ポテンシャル）、状態図</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自発的な変化の方向と程度を予測することによって説明できるようになる。 2. 化学平衡の原理を理解することにより、説明できるようになる。 <p>【双方向授業】【ICT(Google forms)】 ：講義中に理解度確認を行う。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>
4/16	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>溶液の束一的性質</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理想希薄溶液の性質を理解することにより、説明できるようになる。 <p>【双方向授業】【ICT(Google forms)】 ：講義中に理解度確認を行う。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>
4/23	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>化学ポテンシャルと活量および平衡</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活量と活量係数を理解することにより、説明できるようになる。 <p>【双方向授業】【ICT(Google forms)】 ：講義中に理解度確認を行う。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>

4/30	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>電解質のモル伝導率とイオン強度</p> <p>1. モル電動率とイオン強度を理解することにより、説明できるようになる。</p> <p>【双方向授業】【ICT(Google forms)】 ：講義中に理解度確認を行う。 事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。 事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>
5/14	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>イオン強度と平均活量係数</p> <p>1. イオン強度と平均活動係数の関係を理解することにより、説明できるようになる。</p> <p>【双方向授業】【ICT(Google forms)】 講義中に理解度確認を行う 事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。 事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>
5/21	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>起電力</p> <p>1. 起電力とギブズエネルギーの関係を理解することにより、説明できるようになる。 2. 電極電位を理解することにより、説明できるようになる。</p> <p>【双方向授業】【ICT(Google forms)】 ：講義中に理解度確認を行う。 事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。 事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>
5/28	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>総合実力テスト</p> <p>事前学習：第1～7回の配布資料、教科書の講義内容該当箇所を復習し、ミニテスト、演習問題を解き、わからない点を明らかにしておく。</p>

					事後学習：テスト内容を復習し、わからなかった点を復習する。
6/4	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>反応次数と速度定数の算出</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 反応次数と速度定数を理解することにより、説明できるようになる。 2. 微分型速度式の積分型速度式への変換を理解することにより、説明できるようになる。 <p>【双方向授業】【ICT(Google forms)】 ：講義中に理解度確認を行う。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>
6/11	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>擬一次反応と複合反応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 反応次数の決定法を理解することにより、説明できるようになる。 2. 擬一次反応の速度定数を理解することにより、求められるようになる。 3. 代表的な複合反応を理解することにより、説明できるようになる。 <p>【双方向授業】【ICT(Google forms)】 ：講義中に理解度確認を行う。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>
6/18	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>反応速度と温度の関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 反応速度と温度の関係を理解することにより、説明できるようになる。 2. アレニウスの式を理解することにより、説明できるようになる。 <p>【双方向授業】【ICT(Google forms)】 ：講義中に理解度確認を行う。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>

6/25	木	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>総復習</p> <p>1. これまでの講義の内容について説明できる。</p> <p>【調査学習、グループワーク、プレゼンテーション】：学生が、物理化学3で学習した内容について発表を行う。</p> <p>【双方向授業】【ICT(Google forms)】：プレゼンテーション中にピア評価を行う。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容該当箇所を予習し、わからない点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：講義資料、教科書を用いて復習し、講義内容に相当する演習問題を解く。事前学修でわからなかった点が理解できたことを確認する。</p>
------	---	---	----------	-----------	---

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタンダード薬学シリーズ II-2 「物理系薬学 I. 物質の物理的性質」	日本薬学会 編	東京化学同人	2015
参	化学の新研究	ト部吉庸	三省堂	2019
参	物理化学 第2版	石田寿昌	化学同人	2018
参	ライフサイエンスの物理化学演習	中村和郎	三共出版	2009
参	物理 傾向と対策	中村和郎	三共出版	2014
参	Innovated 物理化学大義：事象と理論の融合第2版	青木 宏光、長田 俊治、橋本 直文、三輪 嘉尚	京都廣川書店	2017

・成績評価方法

定期試験（80%）と総合実力テスト（20%）などで総合的に評価する。
総合実力テストを欠席した場合には、定期試験の結果を9/8倍として成績評価を行う。

・特記事項・その他

高校化学の内容について理解し、最低でもセンター試験で 60 点程度とれる実力を付けておくこと。(センター試験レベルの確認試験を初回講義の際に行う。)

指定された教科書・参考書の問題を解き、予習すること。

毎回授業で取り上げるクイズ・ミニテストの配布プリント、教科書を使って復習し講義内容に相当する演習問題を解くこと。

これらの事前学修、事後学修の時間はそれぞれ最低 30 分を要する。

更に、中間試験前には 3 時間程度、定期試験前には 7 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。

学生参加型講義を実施するために、スマートフォン等を利用したクイズを講義中に行う。指示があった場合にはインターネットに接続できるように準備をしておくこと。

状況に応じて、学生が学習内容を発表し、試験問題を作成し議論する対話・議論型講義を行う。